

[震災8年] ここに あなたがいた

そこは学校だった。役場だった。妹が笑い、友と学び、兄が働いていた。被災地で静かにあの日を伝えてきた震災の遺構。保存されるものもあれば、解体されたものもある。東日本大震災から8年。亡き人や古里を遺構に重ね合わせてきた人々を見つめた。(写真と文 関口寛人)

◆石巻市立大川小



大川小学校の旧校舎を裏山から望む佐藤そのみさん。校舎を眺めに来ると、「いつもみずほを感じられる気がする」(2月25日)

校舎の階段を上ると、あの頃に戻れるような気がする。児童74人が津波の犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校で、佐藤そのみさん(22)は、6年生だった妹のみずほさん(当時12歳)を失った。

高校2年生の時、自分自身の母校でもある校舎の解体を望む声があると知った。「私たちの原点の思い出を残したい」と卒業生6人で声を上げた。2年後、保存が決まった。「言葉だけでは伝えられないものもある。だから、この場所が必要」